

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400710		
法人名	社会福祉法人ひまわり福祉会		
事業所名	グループホームひだまり 寒椿ユニット		
所在地	島根県出雲市神西沖町2452-1		
自己評価作成日	平成25年10月14日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族が来られた時は一緒にゆっくり過ごして頂けるように努めている。写真を撮って、ユニット内に飾ったり、居室に飾ったりして、家族との絆を保つようにしている。
 ・個々に出来ること、洗濯たたみや歌を唄ったり、食事作りや食器洗いなどを職員が意識的に関わり、一緒に行い、本人の満足感が得られるようにしている。
 ・個々にバイタル表をつくり、健康管理を行い、必要に応じて主治医に報告し、医療面の充実を図っている。
 ・一人ひとりに対応した食事を提供している。
 ・入浴の回数が充実しており、希望にそって毎日入浴できるようにもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度、3ユニットから2ユニットに組織が変わり、職員間で課題を共有しながら協力し合ってより良いケアの実践に努めている。カンファレンスにできるだけ家族に参加をして貰い情報を把握し、これまでの生活が継続できるように支援している。利用者は食事作りを一緒に行い、部屋の掃除や洗濯物干しをし、ゆっくり利用者のペースで食事を摂り、ユニットの枠を超えて自分の好きな場所で好きな人と食事をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念をみんなで考え、同じ思いで実践しているが、新しい職員が増え理念の共有が出来ていない面があった 会議等で話し合いの場を持ち、心掛けている	毎年、中間総括と総括を行い全職員がふり返る機会を持ち、理念に基づいて次年度の方針を立て実践に繋がられるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神西ボランティア、習字や幸楽会などホームに来て頂いて地域と交流をしている。 個々には受診や外食等に出掛け、地域と交流をしている。	ボランティアと「ひだまりカフェ」でお茶を飲んだり、歌、縫い物をして楽しみながら交流している。地域からの利用者が多くなり、近所の人の来訪が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて認知症の人の理解や支援方法を積み上げてきているが、それを地域の人々へ向けて発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、家族、地域の方、入居者の参加のもと、実践内容を報告したり、意見を聞いたりして、サービス向上に生かしている。	事業所の活動報告、研究発表の内容や家族会、避難訓練の情報を伝え、意見交換をしている。幅広く意見が得られるよう参加メンバーの検討を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の方の参加があり、実践内容を報告し、意見を伺って、サービス向上に取り組んでいる。	日頃から事業所の実情を理解してもらっている。利用者負担軽減措置について市と協力して家族に伝えたり、研修の情報を伝えてもらい連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の意味で夜間は玄関や居室等の鍵を閉めているが、日中は開けている。ひまわり園全体として身体拘束廃止検討委員会を設立している。	法人の会議にリーダーが参加し、内容を全職員が共有している。職員アンケートを実施し、どんなことが身体拘束になるのか考える機会を設けたり、どういう研修が必要かを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修やホーム内の学習会を通して虐待について学び、ホーム内で虐待が行われないようお互いのケアを指摘しあうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の研修において家族と共に学習する機会があり、入居者において必要性を感じた方は成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、入居前に十分な説明を行い、理解、納得をしていただいている。入居後も密に連絡を取ったり、面会時には気になることはないかと伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時や面会時に要望等がないか伺い、ケアプラン更新時に意向等も伺い、ケアに結び付けている。また定期的な第三者委員、介護相談員の受け入れ、意見箱の設置も行っている。	面会時や電話、家族会で聞いている。コミュニケーションをとることを心がけ、面会時ゆつたりと過ごしてもらい何でも話し合える雰囲気づくりをし、意見、要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やミーティング、あるいは日々のケアの合間でも意見を聞き、運営に反映させている。	職員の意見をより引き出せるように、会議の方法を変更しユニット会議の充実を図っている。パート職員からは会議前に意見を紙に書いてもらったり直接聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	離職者が少ないことが示すように職員はやりがいや向上心をもって働いており、職場の環境や条件の整備は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	指導担当者を設け、新人職員のケアの力量を把握したり、働きながらも積極的に外部の研修や学習会に参加できているように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場を設けてもらい、他施設の職員と意見交換する事が出来ている。また、ひまわり園として沢山の委員会や親睦会を通じて他部署との交流の機会も多くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書やアセスメント表等を読んでいるが、頭に入っていないこともある。本人とはしっかり会話をして、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会のある方については都度、連絡や相談し、ケアに取り入れれたり、遠方の方には電話や手紙等で信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が必要としている意向をプランに取り入れれたり、情報収集して本人に必要なケアを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点で、なるべく見守りを中心に行い、できない所は支援している。入居者同士お互いに食事の配膳をしたり等共に生活しているという意識のある方もおられる為、よい関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会は少ない方もいるが、家族と連絡をとり、カンファレンスにも参加して頂き、ケアに結びつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から情報を聞き、会話の中に取り入れるようにしている。馴染みの方の面会時には部屋やパブリック等ゆっくり話ができるようにしている。馴染みの場所に限らず、あまり外出ができていない。	利用者のこれまでの人との関係や生活を継続する支援は十分ではないと考えているが、近所の人や来訪時ゆっくり過ごしてもらったり、墓参りや行きつけの散髪屋に行くなどできることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の中でも合う合わないを把握し、コミュニケーションが取れるようにしているが、利用者同士が支え合えるところまではできていない。利用者同士、トラブルが起こらないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方との関係はほとんどなくなっている。 知人より情報を聞く程度で、相談や支援まではできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、要望を聴き、それぞれの要望を実現できるよう努めている。希望や要望を聞き出せるような会話をしている。	再アセスメントを実施し、利用者、家族からの聞きとりから利用者一人ひとりに新たな気づきがあった。「お酒を飲みたい」などをプランに活かし支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から昔の話を聴いたり、アセスメント表を確認し、生活歴を把握するようにしている。また、家族からも面会時に情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状況を申し送りや記録、職員同士での情報交換で心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員には事前に評価シート記入で情報を共有し、本人を交えたカンファレンスはできていないが、家族に必要なに応じて同席していただき、本人にあった、本人らしい生活ができるように介護計画を作成している。	担当職員が他の職員の意見を聞いたり、個人記録、評価シートをもとにプランを作成している。「評価シート」を用い毎月評価を行っている。カンファレンスにはできる限り家族に出席してもらうよう声をかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録が不十分である。職員に記録の時間を提供し、ケアプランに基づいた関わりを記録に残すように努めている。職員は出勤時に必ず記録を見てから申し送りを聞き、ケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合い、要望に応じた支援に取り組んでいる。その時々生まれるニーズについてはできるものはその都度対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の神西ボランティア、習字ボランティア等に参加し、楽しんで頂いているが、参加者が固定化しつつある。また、地域のスーパーに買い物に出かけたり、祭りに参加したりと外部での交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に合わせたかかりつけ医を受け入れている。特変等があれば都度連絡し、支援していただけるような関係を築いている。	希望するかかりつけ医を受診している。月2回の往診、必要に応じ通院介助の支援をしている。聞きたいことや医師の指示は「受診メモ」に記録し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護職がいないが、かかりつけ医に医療相談をしており、適切な受診、看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院訪問時に看護師から情報交換を行っている。入院中も家族とホーム長、病院との話し合いが行われ、早期退院に向け、情報交換が行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へのアンケートを行い、終末期の希望内容を把握している。過去に終末期の経験もあるので、家族、主治医と連携をとり今後取り組んでいく。	家族の意向を把握し、話し合いながら支援している。看取りの経験もあり、職員は希望があれば家族、医師と連携し取り組みたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員を優先に、出雲市消防本部の普通救命講習を受講し、急変等に備えている。また急変時のマニュアルが掲示してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中、夜間想定で避難訓練を実施している。その時は近隣からの応援もお願いし、協力体制も築いている。	法人として防火委員会を設置し、年2回総合訓練を行っている。近隣の人との協力体制もあり、法人施設と交代で訓練に参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接するときは敬語で話すように心掛けたり、声のトーンを下げたりしてしているが、正しい敬語や言葉使いができていないこともある。	職員の異動もあり、基本的な礼儀を守ることや、上から目線で対応しないよう話している。勉強会でロールプレイをして気づきを話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは本人に自由に活動して頂いて、出来ないところや他に影響を与えるときなどは支援するように心掛けている。本人が選択できる声掛けを身につけることが必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、無理のないように見守り、支援をしている。認知症が進み、自ら行動できない方は職員側の都合に合わせて頂いているところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧のできる方には化粧をして頂いたり、男性の方には特に髭剃りを意識して援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる方が少なくなってきたが、その中でも野菜を切ったり、盛り付け、下膳や食器洗い等なるべくできる方にはして頂いている。	法人の食材で昼、夕食は一緒に食事作りをしている。週2回買い物に行き、好みの丼物や煮しめなど作っている。利用者が希望する場所で食事をしたり、ペースに合わせてゆっくり食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に柔らかいご飯にしたり、細かく刻み一人ひとりにあった食事提供を行っている。声掛けをしてゆっくり食べて頂いている。水分摂取の少ない方にはもう少し意識して摂取していく必要がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表をつくり確実に行うように努めているが、毎食できていない方もいる。口腔ケアをしてもチェックの記入漏れもある。本人が希望されない時は時間をおいて声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムがつかめない方はデータをとり実践している。食事前後等時間を見てトイレ誘導したりして、なるべく失敗しないようにしている。	トイレで排泄ができるよう支援している。声かけの工夫をしたり、利用者が自分で使う紙をたたむなど、その人の力や習慣を活かし自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は牛乳やバナナなど食品を摂取して頂いているが、運動の働きかけは朝のラジオ体操ぐらいである。下剤に頼っていることが多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯に入れるようにしている。希望される方は毎日入浴できるようにしている。また、排泄のタイミングで入って頂いている。時間帯のほとんどは午前中や夕方までのところで行っている。	入浴したい日、希望の時間帯に支援している。あえて2ユニットで1箇所の浴室を使い、職員が協力し柔軟に対応している。運動して汗をかいた時などタイミングを見計らい声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中はなるべく起きて頂いているが、昼食後は体調に応じて休んで頂いている。室温等を意識して都度環境にも配慮し気持ちよく休めるように支援している。夜間もよく休まれる方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬については処方箋等により把握するようにしているが、内服薬が多く完全に把握できていない。病状等の変化があれば主治医に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を一緒に歌ったり、洗濯物を畳んで頂いたり、調理ができる方には一緒に野菜を切ったり、一瞬でもその方が発揮できる場面を作るようにしている。晩酌を毎日されている方にも支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的、希望時には出来ていない。季節に応じてイベント的には外出したり、計画のもと個別で外出している。家族や地域の協力はあまり出来ていない。	前半は外出の機会が少なかったが、可能な時は買い物や散歩、日光浴などしている。職員が薬をとりに行く時に声をかけて誘うこともある。	自分から希望されない人や出にくい人もあるが、短時間でも外気に触れる時間を持たれることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には所持して頂いて自由に使えるようにしている。欲しい物があれば買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの送り物等が届いた時などは電話して頂いている。希望時には電話で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェック表をつくり毎日掃除をするように心掛けている。室温や湿度等は意識している。季節感を感じられる張り紙や写真を掲示している。	3ユニットから2ユニットへ改装の際、利用者の好んでいた畳スペースを残し、炬燵やテレビを置きいつでも使えるように配慮した。利用者と共に作った季節感のある作品や書が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自力歩行可能な方は自由に過ごして頂いている。食事の席等は職員が決めて対応し、なるべく皆が居心地良く過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に過ごして頂くことが前提になるので、使い慣れた物は難しいところもあるが、もう少し家族と相談し、馴染みのあるものを検討していく必要がある。	写真や好みの置物が飾られ、炬燵やポット、手鏡など身の回りの品が持ち込まれている。自分の部屋に洗濯物を干したい人、自分で空調管理をしたい人など、思いを汲み取り対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にはもっと活躍できる場面があると思うが発揮できていないので、日々の体調に応じ、力が発揮できる安全な環境を作っていく必要がある。		